被災地災害対応拠点としての「道の駅」調査・分析

【田村学園　多摩大学】

【活動期間】Ｈ２３．７．１　～　活動中（Ｈ２３．１０．３１現在）

【活動場所】岩手県、宮城県、福島県の道の駅および被災地

【活動内容】

震災時に「道の駅」が果たした役割を把握するために、プレ調査および現地フィールド調査を行いました。

（１）プレ調査 8/16～8/17

現地フィールド調査に先立って、宮城県の「道の駅」３駅のヒアリングを行い、調査項目等の検討を行いました。

（２）現地フィールド調査 9/5～9/10

教員４名、職員１名、学生 12 名で、岩手、宮城、福島の３チームに別れて、計 28 駅、３地方自治体のヒアリングおよび観察調査を行いました。

ガレキ仮置き場の視察風景

駅長ヒアリングの様子

【活動を行った感想】

３県の「道の駅」の実態を調査し、震災時対応の膨大なデータを集めることができました。支援の時期、立地、成り立ちや運営形態によって、果たした役割が違いますが、それを踏まえた今後の防災、復興で果たすべき役割がみえてきました。また、課題は地域によって違い、復興の難しさも感じました。今後の運営について、アドバイスを求められることもありました。現地フィールド調査では、各チームとも、学生たちが積極的に調査の補助を行い、被災地の現実にショックを受けながらも、日に日にたくしましくなり、教育効果も高かったと思われます。今後は、現地調査の結果を踏まえて、東北全域の「道の駅」を対象としたアンケート調査を行います。

【関連 URL】

多摩大学地域活性化マネジメントセンター：http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter.html